

ISSN 0912-778X

# 穂別町立博物館館報

第16号

平成10(1998)年度

穂別町立博物館

## 目 次

- 沿 設 革 .....(p.1)
- 施 設 の 概 要 .....(p.4)
- 施 設 平 面 図 .....(p.4)
- 展 示 活 動 .....(p.5)
- 収 蔵 資 料 概 要 .....(p.6)
- 資 料 収 集 保 存 活 動 .....(p.6)
- 調 査 研 究 活 動 .....(p.8)
- 普 及 教 育 活 動 .....(p.10)
- 運 営 .....(p.12)

## ● 沿革

「この博物館は、国の公立社会教育施設整備事業及び北海道市町村振興事業の補助を受け建設されたものである。」

穂別町立博物館は昭和50(1975)年の長頸竜「ホベツアラキリュウ」標本の発見がきっかけとなって建設された。当初は「穂別町郷土資料館」として計画され、建設計画中に「穂別町立博物館」として名称変更された。名称変更後の館活動は「本町で発見される化石(自然史)」の研究・保存・普及と「町の歴史(人文)」の保存・普及を行う二面性を備えた総合博物館としてのものであった。

その後、約10年にわたる博物館活動の結果蓄積された自然史資料の重要性と、人文系資料の保存活動に要する作業量にアンバランスを生じ、活動方針の変更が行われた。その基本活動方針は、「穂別地域で産出する古生物(化石)を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」である。その後現在にいたるが、ここではその経緯を記録し、今後の活動の充実と強化につとめていきたい。

### I 「建設の目的」と「展示更新」の基本的考え方

#### 〈穂別町郷土資料館建設の目的〉

(昭和55(1980)年11月26日)

『本町は、クビナガリュウをはじめデスモスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開町70年(町制施行20年)を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

#### 〈展示更新の基本的考え方〉

(平成2(1990)年6月27日)

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物としてみた場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわり、模型は「生きていたときの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系としての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の1頁1頁であることを理解させる博物館

とする。』

### II 沿革

昭和50(1975)年6月

穂別町字長和において、脊椎動物化石の入った母岩を発見、一部採集。発見者：荒木新太郎氏(穂別町在住)。

昭和51(1976)年9月

佐藤昌人指導員(苫小牧青少年センター)・佐藤隆久教諭(穂別町立仁和小学校)、荒木氏発見の化石を長谷川善和主任研究員(国立科学博物館)に鑑定依頼。

昭和52(1977)年2月

長谷川主任研究員の鑑定結果が新聞で報道。白亜紀海棲爬虫類の鱗の一部と確認。

昭和52(1977)年7月5～8日

「穂別町首長竜化石発掘調査団」結成、発掘調査。後に、この標本を「ホベツアラキリュウ」標本と命名。

昭和53(1978)年5月

「ホベツアラキリュウ」標本のクリーニング(剖出)作業開始。

昭和53(1978)年11月

穂別町立郷土資料館、開館(旧・穂別町立さくら保育所施設利用)。

- 昭和54(1979)年5月  
長頸竜化石骨，穂別町指定文化財第2号に指定.
- 昭和55(1980)年10月16日  
「穂別町郷土資料館建設計画検討委員会」発足.
- 昭和56(1981)年3月13日  
施設の名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博物館に変更.
- 昭和56(1981)年7月～12月  
博物館建設工事.
- 昭和56(1981)年9月1日  
鈴木 茂学芸員就任（～昭和60年3月31日）.
- 昭和57(1982)年1月16日  
長頸竜復元作業開始.
- 昭和57(1982)年3月～6月  
博物館展示工事行われる.
- 昭和57(1982)年7月20日  
博物館開館. 一般公開開始（初代館長：今幸太郎教育長兼任）.
- 昭和57(1982)年8月26日  
「博物館協議会」発足.
- 昭和57(1982)年11月1日  
北海道博物館協会加入.
- 昭和57(1982)年12月19日  
長頸竜復元骨格展示公開.
- 昭和57(1982)年12月19日  
特別展「よみがえるクピナガリュウ」開催.
- 昭和58(1983)年3月2日  
博物館法による登録博物館となる（北博登第28号）.
- 昭和58(1983)年3月28日  
「博物館協力会」設立.
- 昭和58(1983)年4月1日  
日本博物館協会加入.
- 昭和58(1983)年4月28日  
菅原康次（第二代）館長就任.
- 昭和58(1983)年7月22日～8月7日  
収蔵資料展「地図展」開催.
- 昭和58(1983)年8月1日  
全国科学博物館協議会加入.
- 昭和59(1984)年2月  
村上隆著「よみがえるクピナガリュウ」発刊.
- 昭和59(1984)年3月27日  
「穂別町立博物館研究報告」刊行開始.
- 昭和59(1984)年6月14日  
第二展示室（町立博物館保存庫）完成.
- 昭和59(1984)年11月1日～4日  
収蔵資料展「古い写真・古い文書展」開催.
- 昭和59(1984)年12月1日  
桜庭勝美（第三代）館長就任.
- 昭和60(1985)年3月30日  
「穂別町立博物館館報」刊行開始.
- 昭和60(1985)年5月1日  
地徳 力学芸員就任（～平成11年3月31日）.
- 昭和60(1985)年11月1日  
特別展「北海道一億年」開催.
- 昭和61(1986)年10月21日  
特別展「穂別の自然」開催.
- 昭和62(1987)年1月1日  
今幸太郎（第四代）館長就任（教育長兼任）.
- 昭和62(1987)年7月28日  
特別展「アンモナイトの系図」開催.
- 昭和63(1988)年7月17日  
第三展示室（保存庫）完成.
- 昭和63(1988)年8月23日  
特別展「穂別のカメ化石」開催.
- 昭和63(1988)年10月6日  
今 幸太郎（第五代）館長就任（専任）.
- 平成元(1989)年6月30日  
仲谷 英夫氏（香川大学助教授）：長頸竜ホベツアラキリュウ標本の記載論文公表.
- 平成元(1989)年7月18日  
特別展「穂別のむかし」開催.

平成元(1989)年9月29日～10月6日  
学芸員, カナダ・アルバータ州ティーレル古生物学博物館に派遣.

平成2(1990)年7月23日  
ドラムヘラー市長夫妻(カナダ, アルバータ州)来館.

平成2(1990)年8月18日  
特別展「戦争と穂別」開催.

平成2(1990)年9月3日～5日  
レイド, M. G. 氏(アルバータ州ティーレル古生物学博物館)来館.

平成2(1990)年12月31日  
野田藤雄(第六代)館長就任(教育長兼任).

平成3(1991)年4月1日  
佐藤 稔(第七代)館長就任.

平成3(1991)年4月28日, 29日  
入館者10万人突破記念事業.

平成4(1992)年2月1日  
展示更新工事開始.

平成4(1992)年4月23日～25日  
カリー, P. J. 氏(アルバータ州ティーレル古生物学博物館)来館.

平成4(1992)年4月29日  
展示更新完了, 一般公開再開.

平成6(1994)年4月1日  
野田藤雄(第八代)館長就任(教育長兼任).

平成6(1994)年4月1日  
川上源太郎学芸員就任(～平成10年3月31日).

平成7(1995)年7月15日～9月12日  
学芸員, カナダ・アルバータ州ティーレル古生物学博物館に派遣, 研修.

平成8(1996)年7月27日～28日  
'96北海道化石サミット開催(穂別町民センター).

平成8(1996)年10月6日  
大江美津夫(第九代)館長就任.

平成9(1997)年7月6日, 7月10日～8月31日  
クビナガリュウ発掘20周年記念事業パネル展.

平成10(1998)年4月1日  
櫻井和彦学芸員就任.

平成10(1998)年6月11日  
星 功(第十代)館長就任.

平成10(1998)年8月11日～8月31日  
特別展「地球物語り」開催.

平成11(1999)年1月1日  
山田 正(第十一代)館長就任.

\*本年表において「長頸竜」・「首長竜」・「クビナガリュウ」あるいは「ホベツアラキリュウ」などの使い分けを行っているが、以下に従っている。

- ・「長頸竜」：動物分類上の suborder PLESIOSAURIA の和訳として用いている。「蛇頸竜亜目」または「長頸竜亜目」が正式。
- ・「首長竜」：分類学上の名称としては適切ではないが、この場合「発掘調査団」の固有名称として使用。
- ・「クビナガリュウ」：正式には「蛇頸竜目」または「長頸竜目」あるいはそのカタカナ綴りにするべきであるが、通俗名として普及しているために本の題名として用いられたのであるから、この場合固有名称として使用。
- ・「ホベツアラキリュウ」：昭和52(1977)年7月5～8日に「穂別町首長竜化石発掘調査団」によって発掘された標本の名称。



●展示活動

I 特別展示

「地球物語り」（地質学普及書の近代史） 平成10(1998)年8月11日～8月31日

II 常設展示

【学校週5日制関連事業】

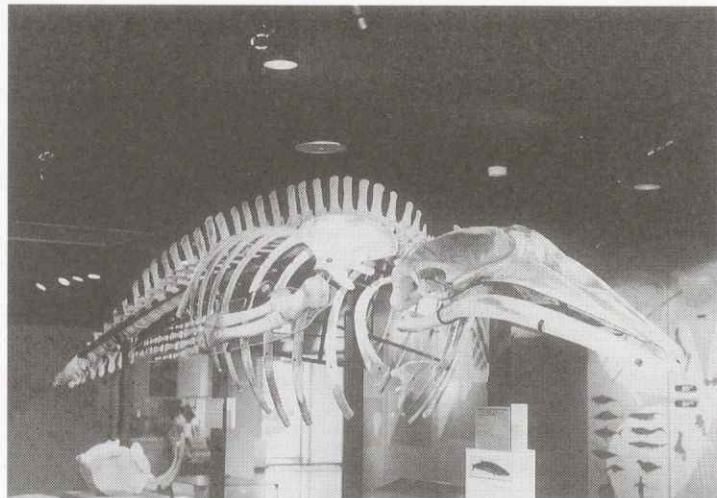
学校週5日制実施にあわせて町民無料観覧を実施。毎月第二・第四土曜日を町内の児童生徒無料観覧の日とする。

【博物館開館記念日関連事業】

7月20日の開館記念日に関連して、平成10(1998)年7月20日(月)～7月26日(日)を町民無料観覧の日とした。

【常設展示資料】

長頸竜化石	11点
モササウルス	7点
カメ化石	9点
魚竜化石	1点
魚類化石	7点
頭足類化石	87点
巻貝化石	27点
二枚貝化石	40点
掘足類化石	3点
甲殻類化石	9点
ウニの化石	5点
クジラの化石	8点
デスモチルスの化石	4点
マンモスの化石	1点
植物化石	2点
霊長類化石	7点
岩石その他	27点
計	254点



【博物館特定入館日に伴う町民無料入館者利用状況調べ】

実施日	行事名	一般	小・中・高生	計
'98.4.1.～'99.3.31	学校週5日制（年23回実施）	3	26	29
7.20～26	博物館開館記念日（7日間）	14	15	29
9.15	敬老の日	9	5	14
11.3	文化の日	5	7	12
11.23	勤労感謝の日	2	1	3
1.15	成人の日	3	0	3
計	延べ34日	36	54	90

(単位：人)

●収蔵資料概要

【自然史系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	183	2	18	201
処 理 中	0	0	0	0
貸 出 中	10	0	0	10
収 蔵 庫	841	4	6	851
計	1,034	6	24	1,064

【自然系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	1	0	0	1
貸 出	22	0	0	22
収 蔵 庫	31	23	0	54
計	54	23	0	77

(いずれも1999.3.31.現在, 登録資料のみ)

●資料収集保存活動

平成10(1998)年4月1日～平成11年(1999)年3月31日の寄贈・採集資料を順に記した。(敬称略)

I 寄 贈

【自然史系資料】 15件

アンモナイト	15点	阿部利春
ノジュール(化石含有)	3点	高橋博志
骨化石	2点	千歳化石会
スナモグリノツメ	1点	高橋博志
ノジュール(化石含有)	1点	阿部利春
イノセラムス・アンモナイトほか	16点	高橋博志
二枚貝化石・巻貝化石	2点	高橋博志
イノセラムス	1点	東 信夫
二枚貝化石	1点	渋谷直憲
ノジュール(黄鉄鉱生成)	1点	千歳化石会
スナモグリノツメ	1点	益田 和貴子 (鹿児島市)
イノセラムス・アンモナイトほか	10点	阿部利春
ノジュール(生痕化石?)	1点	安田由造
ノジュール(化石含有)	22点	博物館協力会

【自然系資料】 1件

オオタカ(若鳥)	1点	穂別町役場
----------	----	-------

【人文系資料その他】 0件

II 採 集

【自然・自然史系資料】\*主なもののみ

05/18	平丘	巻貝化石
05/18	富内	イノセラムス・植物化石
05/18	富内	石炭
05/29	穂別	骨化石
06/11	富内	アンモナイト
06/18	富内	二枚貝化石
08/14	稲里	アンモナイト
09/09	穂別	スナモグリノツメ
09/22	福山	骨化石
09/22	福山	骨化石
10/20	長和	巨大アンモナイト (採取協力:千歳化石会)
10/20	長和	サンゴ化石
10/21	長和	骨化石
10/21	稲里	石炭
10/21	穂別	骨化石
10/21	穂別	骨化石
10/21	穂別	骨化石
10/21	穂別	骨化石
10/29	稲里	植物化石
10/29	稲里	骨化石
11/06	長和	アンモナイト
11/06	長和	植物化石



### Ⅲ 資料の貸出

平成8(1996)年5月11日～平成9(1997)年8月31日

ウミガメ化石：帝京平成大学平山 廉博士，3点

平成8(1996)年8月1日～平成9(1997)年8月31日

ウミガメ化石：帝京平成大学平山 廉博士，5点

平成9(1997)年4月1日～平成10(1998)年3月31日

アンモナイト・イノセラムス：穂別地球体験館，  
2点

平成9(1997)年4月1日～平成10(1998)年3月31日

人文系資料：みどりと文芸の館（富内），6点

平成9(1997)年4月1日～平成10(1998)年3月31日

自然系資料（剥製）：穂別町立穂別小学校，20  
点

平成9(1997)年6月18日～9月9日

クビナガリュウ全身復元模型，モササウルス鱗  
化石，オサガメ化石：北海道開拓記念館第44回  
特別展「クビナガリュウからステラーカイギョ  
ウ化石に見る世界の海」にて展示

平成9(1997)年6月27日～平成10(1998)年6月26日

アンモナイト化石：工業技術院地質調査所利光  
誠一博士，2点

平成9(1997)年7月25日～10月31日

植物化石：三笠市立博物館，7点

平成9(1999)年9月3日～9月16日

クビナガリュウ全身復元模型：'97北海道化石サ  
ミット記念特別展にて展示

平成9(1997)年9月5日～9月6日

人文系資料：第14回ウタリ碑前祭にて使用，15  
点

平成9(1997)年10月1日～平成10(1998)年3月31日

甲殻類の化石：千葉県立中央博物館加藤久佳学  
芸員，2点

平成10(1998)年4月1日～平成11(1999)年3月31日

三笠産魚竜化石：北海道大学大学院理学研究科  
渡辺暉夫教授，1点

平成10(1998)年6月18日～9月30日

クビナガリュウ全身復元模型，モササウルスひ  
れ化石：特別展「化石は語る－太古の海と動  
物」（芦別星の降る里百年記念館），各1点

平成10(1998)年6月14日～6月17日

シントコ：ウタリ協会穂別支部，1点

I 脊椎動物化石の研究

【総論】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 元穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演:

[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 47-52.

地徳 力(穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演:

[1990] 穂別町立博物館研究報告, [6], 37-35.

[1993] 日本地質学会第100年学術大会(東京)夜間小集会口頭発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)一般発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)夜間小集会口頭発表

【デスモスチルス】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

公表論文・講演:

[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 11-23.

[1984] 地団研専報, [28], 51-61. (松井 愈・山口昇一 共著)

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 51-62.

赤松守雄(北海道開拓記念館)学芸員に研究委託

公表論文・講演:

[1984] 地団研専報, [28], 63-68.

【クジラ】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

一島啓人(オタゴ大学大学院)氏に研究委託

公表論文・講演:

[1992] 穂別町立博物館研究報告, [9], 37-44.

[1994] The Island Arc, [3], 473-485.

[1994] The island Arc, [3], 486-492.

【ウミガメ】

平山 廉(帝京平成大学)講師に研究委託

公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 17-30. (鈴木 茂 共著)

[1992] 穂別町立博物館研究報告, [8], 17-57.

[1992] 日本地質学会第99年学術大会(熊本)口頭発表

[1994] 地団研専報, [43], 17-24. (地徳 力 共著)

[1994] The Island Arc, [43], 270-284.

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)口頭発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)夜間小集会口頭発表

[1995] 日本地質学会第102年学術大会(広島)口頭発表

[1996] 日本古生物学会報告・紀事, [184], 597-622. (地徳 力 共著)

【リクガメ】

平山 廉(帝京平成大学)講師に研究委託予定

公表論文・講演:

[1998] 穂別町立博物館研究報告, [14], . (紀藤典夫・川上源太郎 共著)

[1998] 日本古生物学会例会(札幌)口頭発表

【長頸竜】

仲谷英夫(香川大学)助教授に研究委託

公表論文・講演:

[1981] 日本地質学会第88年学術大会(東京)口頭発表

[1982] 日本地質学会第89年学術大会(新潟)口頭発表

[1982] 動物と自然, 12, 11-16.

[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 37-40.

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 43-49.

[1989] 穂別町立博物館研究報告, [5], 43-48.

[1989] 日本古生物学会報告・記事, [154], 96-116.

## 【モササウルス】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 元穂別町立博物館学芸員)氏が研究

公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 31-42.

[1985] 地学団体研究会専報, [30], 45-66.

地徳 力(穂別町立博物館学芸員)が別資料の研究継続

公表論文・講演:

[1987] 日本地質学会第94年学術大会(大阪)口頭発表

[1990] 日本地質学会第97年学術大会(富山)口頭発表

[1990] 日本地質学会北海道支部報, [1], 45-46

[1991] 穂別町立博物館研究報告, [7], 9-14. (紀藤典夫 共著)

[1994] 穂別町立博物館研究報告, [10], 39-54.

櫻井和彦(穂別町立博物館学芸員)が別資料の研究継続

公表論文・講演:

[1999] 日本地質学会北海道支部平成10年度総会・例会(札幌)口頭発表

[1999] 穂別町立博物館研究報告, [15], 53-66 (地徳 力・渋谷直憲 共著)

## 【サメ】

久家直之氏(ジオサイエンス株式会社)に研究委託

公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [1], 33-36.

## 【翼竜】

地徳 力(穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演:

[1994] 日本地質学会北海道支部総会講演

[1996] 穂別町立博物館研究報告, [12], 17-22.

## II その他の研究

## 【社会教育】

櫻井和彦・地徳 力(穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演:

[1998] 日本地質学会第105年年会(松本)口頭発表

## III 現地調査

### 【現地調査活動】

05/12, 05/13, 05/14, 05/27, 05/28, 06/09, 06/10, 06/11, 06/12, 07/09, 07/10, 07/27, 09/10, 10/13, 10/14, 10/19, 10/22, 10/30, 11/04, 11/11, 11/13

: 計21回

## IV 刊行物

### 【穂別町立博物館館報】

第15号, 14頁: 平成10(1998)年7月30日発行

### 【穂別町立博物館研究報告】

第15号, 66頁: 平成11(1999)年3月30日発行

### <著者及び論文題名>

地徳 力: 1-16頁

地学辞典小史

地徳 力: 17-51頁

日高山脈研究論文目録

櫻井和彦・地徳 力・渋谷直憲: 53-66頁

北海道穂別町から産出したMosasaurus(爬虫綱, モササウルス科)の一新種

## V 参加学会・博物館協会研修会

平成10(1998)年9月3~4日: 北海道博物館協会・学芸職員部会研修会(足寄動物化石博物館)

平成10(1998)年9月25~27日: 日本地質学会第105年年会(松本)

平成11(1999)年3月5日: 日胆地区博物館等連絡協議会 博物館職員研修会(白老)

平成11(1999)年3月13日: 日本地質学会北海道支部平成10年度総会・例会(札幌)

●普及教育活動

I 博物館講座

【自然観察会】

平成10(1998)年8月7日：「ホッピー探検隊」  
(パンケオピラルカ沢) (雨天により中止)

【化石採集会】

平成10(1998)年8月19日：「友情の翼」(国立  
大隅少年自然の家) (45名)  
平成10(1998)年9月12日：「土よう日の集い  
化石採集会(福山地区)」(町教育委員会主  
催) (13名)

【地質見学会】

平成10(1998)年9月14日：「イギリス海岸探訪  
(富内地区)」('98ほべつ銀河鉄道の夕  
べ) (20余名)

【化石クリーニング・レプリカ作成】

平成10(1998)年11月5日：稲里小学校(穂別町)  
(7名)  
平成11(1999)年1月13日：「土ようの集い 化石  
クリーニング教室」(町教育委員会主催) (6  
名)

II ホッピーだより(博物館広報)

【内容】

161号(平成10(1998)年4月)  
「寄贈資料の紹介」

162号(平成10(1998)年5月)  
「はじめまして、桜井です  
—空を飛ぶ動物(その1)—」

163号(平成10(1998)年6月)  
「空を飛ぶ動物(その2)—翼竜・コウモリ・  
鳥類」

164号(平成10(1998)年7月)  
「海を泳ぐ動物(その1)—再び、海へ—」

165号(平成10(1998)年8月)  
「海を泳ぐ動物(その2)—海を泳ぐ爬虫類  
—」

166号(平成10(1998)年9月)  
「海を泳ぐ動物(その3)—海を泳ぐ鳥類—」

167号(平成10(1998)年10月)  
「海を泳ぐ動物(その4)—海を泳ぐ哺乳類  
—」

168号(平成10(1998)年11月)  
「陸を歩く動物(その1)—両生類・爬虫類  
—」

169号(平成10(1998)年12月)  
「陸を歩く動物(その2)—陸を歩く鳥類—」

170号(平成11(1999)年1月)  
「謹賀新年—近況報告—」

171号(平成11(1999)年2月)  
「近況報告—そして、クジラのはなし—」

172号(平成11(1999)年3月)  
「陸を歩く動物(その4)—陸を歩く哺乳類  
—」

\*「陸を歩く動物(その3)」は欠番です。

### Ⅲ その他

#### 【穂別町教職員研究会】

平成10(1998)年9月17日：化石クリーニング講習会(6名)

#### 【研修会・展示案内】

平成10(1998)年7月：

9日：胆振管内高等学校初任者研修(9名)

24日：社会教育主事研修(55名)

平成10(1998)年8月：

12日：北海道教育大学札幌校地学教室(24名)

平成10(1998)年9月：

12日：北海道教育大学公開講座(21名)

26日：北海道教育大学フレンドシップ事業(58名)

#### 【講演会】

平成10(1998)年11月29日：

千歳化石会納会(千歳市)：「異常巻きアンモナイトの殻の形態」

#### 【町内教育・福祉団体の利用】

平成10(1998)年6月：

14日：ウタリ協会穂別支部(20名)

30日：仁和小学校(13名)

平成10(1998)年7月：

4日：稲里小学校(10名)

16日：穂別中学校(33名)

平成11(1999)年3月：

2日：穂別小学校(人文系資料見学)(34名)

#### 【町外教育・福祉団体の利用】

平成10(1998)年5月：

9日：富良野農業高校(23名)

13日：門別町立厚賀中学校(34名)

19日：長沼中央中学校(53名)

恵庭中学校(169名)

26日：本岐中学校(23名)

29日：大阪府立農業高校(54名)

平成10(1998)年6月：

9日：水戸市立第5中学校(40名)

16日：水戸市立第4中学校(16名)

17日：北広島西高校(395名)

21日：水戸市立第3中学校(79名)

30日：札幌月寒東小学校(99名)

平成10(1998)年7月：

9日：恵庭市柏陽中学校(130名)

15日：苫小牧明野中学校(213名)

平取養護学校(66名)

30日：札幌学童保育(いたち児童育成会)(49名)

平成10(1998)年8月：

23日：喜茂別町教育委員会「少年教室“わんぱく道場”」

平成10(1998)年9月：

11日：江別市立大麻東小学校(76名)

29日：鶴川町生田小学校(23名)

平成10(1998)年10月：

13日：喜茂別双葉学園(65名)

21日：北海道ウタリ協会旭川支部(15名)

平成10(1998)年11月：

10日：門別町障害児学級(10名)

11日：富川ひばり幼稚園(56名)

13日：富川ひばり幼稚園(42名)

17日：富川ひばり幼稚園(50名)

20日：社会福祉法人緑星の里(苫小牧)(15名)

I おもなできごと

平成10(1998)年6月：

14日：ウタリ協会穂別支部 来館

平成10(1998)年8月：

11日～31日：特別展「地球物語り」（地質学普及書の近代史）

12日：北海道教育大学札幌校地学教室 来館

19日：国立大隅少年自然の家「友情の翼」化石採集会

21日：Barnes, L.G. (USA, ロサンゼルス郡立博物館), Domming, D.F. (USA, ハワード大学), Goedert, J.L. (USA, ワシントン大学), Aranda-Manteca, F.J. (メキシコ, ABC大学), 木村方一教授(北海道教育大学), 古沢 仁学芸員(札幌市市民文化局), 一島啓人学芸員(福井県恐竜博物館準備室) 来館

23日：喜茂別町教育委員会「少年教室“わんぱく道場”」化石採集会

平成10(1998)年9月：

12日：北海道教育大学公開講座 来館

14日：「イギリス海岸探訪」（富内）（'98ほべつ銀河鉄道の夕べ）にて現地案内

25日～27日：日本地質学会第105回年会（松本市）「穂別町富内のイギリス海岸」（口頭発表）

26日：北海道教育大学フレンドシップ事業 来館

平成10(1998)年10月：

8日～9日：「'98北海道化石サミット」（足寄町）参加

21日：北海道ウタリ協会旭川支部 来館

平成10(1998)年12月：

3日：コイワシクジラ全身骨格（常設展示室）の一部修正（～平成11年1月25日）

7日：巨大アンモナイト（10月20日採集）を常設展示に追加

平成11(1999)年1月：

18日：博物館実習生（北海道教育大学札幌校：1名）受入（～平成11年2月5日）

平成11(1999)年3月：

13日：日本地質学会北海道支部例会（札幌市）にて、「穂別産モササウルスの新種」について口頭発表

II 町外自治体などの視察

平成10(1998)年4月：

25日：胆振支庁地域政策課（2名）

平成10(1998)年5月：

17日：音更町教育委員会（3名）

27日：追分町教育委員会（2名）

平成10(1998)年6月：

10日：教育庁生涯学習部埋蔵文化財係（3名）

16日：胆振管内教育主事（9名）

胆振支庁農政部（4名）

17日：芦別星の降る里百年記念館職員（3名）

平成10(1998)年7月：

1日：北海道自然環境保全審議会野生生物部会（8名）

3日：胆振管内教育委員会次課長会議（15名）

7日：富山県入善町議会議員行政視察（8名）

9日：北海道農村計画課（7名）

平成10(1998)年8月：

24日：中札内村議会行政視察（14名）

26日：全道農業会議議員（20名）

平成10(1998)年9月：

4日：標津町体育指導員（3名）

9日：白老町教育委員会（10名）

10日：追分町職員（2名）

林野庁職員（6名）

18日：虻田町商工会（21名）

23日：小樽商工振興署（2名）

平成10(1998)年11月：

10日：枝幸町教育委員会（2名）

平成10(1998)年12月：

10日：鷲川河川改修事務所職員（4名）

### Ⅲ 組 織



職員名簿 (平成11(1999)年3月31日現在)

館長 山田 正  
 庶務主幹 芦谷 優子  
 学芸主幹 地 徳 力  
 学芸員補 櫻井 和彦

博物館協議会委員(平成11(1999)年3月31日現在)

会長 荒木 新太郎  
 副会長 小石川 武美  
 委員 久保田 瑞真  
 委員 高橋 文明  
 委員 工藤 勉  
 委員 藤江 保徳  
 委員 村上 隆

(平成12(2000)年7月31日まで)

### Ⅳ 利用状況

【常設展示観覧者】

平成10(1998)年4月～平成11(1999)年3月

月	一般	学生	計	開館日
4	562	151	713	26
5	1,728	1,065	2,793	27
6	579	685	1,264	24
7	1,242	1,011	2,253	31
8	2,352	1,293	3,645	31
9	883	331	1,214	23
10	749	173	922	25
11	334	76	410	22
12	31	4	35	23
1	52	3	55	21
2	78	7	85	23
3	226	6	232	25
計	12,960	661	13,621	301

(単位：人・日)

### Ⅴ 博物館使用料収入

区 分		有料入館者数	使用料
一般	個人	7,473	2,241,900
	団体	767	284,400
学生	個人	2,844	153,400
	団体	1,876	93,800
合計		12,960	2,773,500

(単位：人・千円)

### Ⅵ 平成10年度予算

費 目	予 算
報 酬	46
共 済 費	85
賃 金	4,050
報 償 費	164
旅 費	453
需 用 費	7,346
役 務 費	868
委 託 料	3,361
使用料及び賃借料	1,028
工事請負費	2,205
原 材 料 費	492
備 品 購 入 費	133
負担金補助及び交付金	152
博 物 館 費 合 計	20,383

(単位：千円)

## Ⅷ 利用案内

### 【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分

### 【休館日】

月曜日・祝日の翌日・毎月月末・  
年末年始（12月30日～1月5日）

### 【観覧料】

	一般	*学生
個人	300円	100円
**団体	200円	50円

注：未就学児童は無料（要大人の付添い）

\* 学生：小・中学生・高校生

\*\*団体：10人以上

### 【減 免】

「（穂別町立）博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない（穂別町立博物館設置条例、第6条）」が「（穂別町）教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる（同条例、第7号）」。  
減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

穂別町立博物館施行規則 第6条条例第7条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。

#### （教育目的）

1) 穂別町立小・中学校及び北海道穂別高等学校の児童生徒が教育を目的として入館する場合

#### （研究目的）

2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合

#### （福祉目的）

3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

#### （公益目的）

5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合



穂別町立博物館館報 第16号  
平成10(1998)年度

発行 1999年5月31日

発行者 穂別町立博物館

〒054-0211

北海道勇払郡穂別町字穂別 8 0 番地の6

TEL (01454) 5-3141

印刷 穂別誠和学園

〒054-0364

北海道勇払郡穂別町字富内 1 1 4 番地

TEL (01454) 6-6014

